

講義ユニット名	臨床腫瘍学・放射線腫瘍学		所属科目名	全身性疾患制御学
講義ユニット 責任者	ながた やすし	所属	放射線腫瘍学講座 (内線 6831)	
	永田 靖	メール	nagat@hiroshima-u.ac.jp	
講義ユニット コーディネーター	にしぶち いくの	所属	放射線腫瘍学講座 (内線 6831)	
	西淵 いくの	メール	ikuno@hiroshima-u.ac.jp	
授業方法	講義形式。パワーポイントを使用して、スライドを呈示しながら進める。			
概要	臨床腫瘍学の基礎と臨床を総合的に講義する。まず放射線療法、薬物療法、手術療法、緩和医療と腫瘍病理学について総論を学習する。総論に引き続いて、放射線腫瘍学の各論として腫瘍性疾患の臨床を分野毎に詳説する。			
講義ユニットの 到達目標	<p>腫瘍の症候を説明できる</p> <p>腫瘍のグレード、ステージを概説できる</p> <p>腫瘍の検査所見を説明できる。</p> <p>腫瘍の画像所見や診断を説明できる。</p> <p>腫瘍の病理所見や診断を説明できる。</p> <p>放射線の種類、性質、測定法と単位を説明できる。</p> <p>種々の正常組織の放射線感受性の違いを説明できる。</p> <p>放射線治療の原理を説明し、主な放射線治療法を列挙できる。</p> <p>高精度放射線治療の種類、適応について説明できる。</p> <p>腫瘍の放射線療法を概説できる。</p> <p>脳腫瘍に対する放射線治療について説明できる。</p> <p>頭頸部癌に対する放射線治療について説明できる。</p> <p>肺癌に対する放射線治療について説明できる。</p> <p>乳癌に対する放射線治療について説明できる</p> <p>消化器癌に対する放射線治療について説明できる。</p> <p>婦人科腫瘍に対する放射線治療について説明できる。</p> <p>前立腺癌に対する放射線治療について説明できる。</p> <p>悪性リンパ腫・造血器腫瘍に対する放射線治療について説明できる。</p> <p>緩和照射について説明できる。</p> <p>放射線治療による副作用と障害を説明できる。</p> <p>現代医学における放射線の有効的活用について具体的に説明できる。</p> <p>腫瘍の集学的治療を概説できる。</p> <p>腫瘍の手術療法を概説できる。</p> <p>腫瘍の薬物療法（殺細胞性抗癌薬、分子標的薬、免疫チェックポイント阻害薬）を概説できる。</p> <p>腫瘍の生物学的療法を概説できる。</p> <p>腫瘍における支持療法を概説できる。</p> <p>腫瘍の診療におけるチーム医療を概説できる。</p> <p>腫瘍の診療における生命倫理（バイオエシックス）を概説できる。</p> <p>腫瘍性疾患をもつ患者の置かれている状況を深く認識できる。</p> <p>腫瘍における緩和ケアを概説できる。</p> <p>緩和ケア（緩和ケアチーム、ホスピス、緩和ケア病棟、在宅緩和ケアを含む）を概説できる。</p> <p>全人的苦痛を説明できる。</p> <p>緩和ケアにおいて頻度の高い身体的苦痛、心理社会的苦痛を列挙することができる。</p> <p>疼痛のアセスメント、疼痛緩和の薬物療法、癌疼痛治療法を説明できる。</p> <p>オピオイドの適応と課題を説明できる。</p> <p>緩和ケアにおける患者・家族の心理を説明できる。</p>			
講義日程	別紙日程表を参照のこと			
出席の取り扱い	出席状況把握システムにて毎講義出席をとる。 3分の2以上の出席がない場合は試験（本試験、追試験とも）の受験資格を与えない。			

評価項目	到達目標の達成度 (基本的理解と知識の応用)
評価法	MCQ形式にて試験を行う。 本試験における合格基準は60点とする。ただし59点以下が多数名の場合は考慮する。
推奨参考書	【購入を推奨する参考書】 がん・放射線療法2017 (秀潤社) 【その他、学習に有用な参考書等】 臨床放射線腫瘍学—最新知見に基づいた放射線治療の実践 (南江堂)